

幼児の社会的・感情的発達に関する研究（Ⅲ）

—感情的発達を中心に—

大坪治彦・島田俊秀・松田君彦

(1984年10月15日 受理)

Research on the Social and Emotional Development
of Young Children (III): Emotional Development

Haruhiko OHTSUBO, Toshihide SHIMADA and Kimihiko MATSUDA

はじめに

幼児期における感情の発達を考えてみると、それは、情緒が次第に分化していく過程として捉えることができる。もちろん、生後数日の新生児でさえ、口元の筋肉が動いて「ほほえみ」を見せる。しかし、これは快感等の情動に基づくものではなく、間脳や脳幹部位の自発的興奮に対応した一種の生物学的反射にすぎないと言われている。Bridges (1932) によると、その分化の端緒は、生後1ヶ月位であり、2歳頃までに、快、不快、怒り、嫌悪、恐れ、得意、大人への愛情、子どもへの愛情、喜び、嫉妬などが一応分化を完了して、働くようになるとされている(図-1参照)。

この諸感情、いわゆる情緒は、子どもの発達において非常に重要な役割を演じている。情緒は、人間の活動を促進したり、抑制したりする、原動力となるものであり、パーソナリティに関わるすべての発達には、この情緒的経験を伴うのである。

インドで発見された狼に育てられたという8歳の女兒は、ともに生活してきた2歳の女兒が死亡したとき、悲しむことも知らず、泣きもせず、涙も出していない(Singh & Zingg; 1942)。また、発達過程で適切な感情的経験が不足すると、ホスピタリズム(hospitalism; 施設病)などの障害が生じ、行動面で種々の不適応が生じてしまうことも、よく報告されてきたことである。

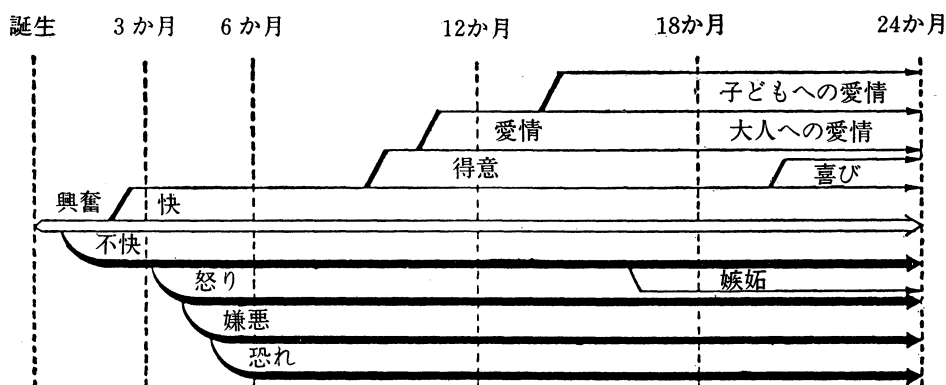


図-1 2歳までの情緒の分化

(Bridges; 1932に基づいて作製:「図説児童心理学事典」高野・林; 1975より引用)

このように情緒は、人間の行動の動機づけの核とも言うべきものであり、幼児における情緒の適切な分化は、人の精神発達にとって、もっとも重要な機能の一つである。

さらに、幼児期においては、これら喜怒哀楽の感情が分化し、より豊かになっていくということだけでなく、これら自分の感情を適切に自分で統制できるようになるということも大切な目標となる。たとえば、自分の思い通りにならないと、かんしゃくを起こすというようなことは、子どもの発達に伴って次第に少なくなることが期待されよう。

このように、幼児期における感情の発達を検討することは非常に重要なことであると考えられるが、これまで、「感情」が、たとえば幼児教育の課題として積極的にとりあげられることは少なかつたと言える。幼児教育では、絵画や音楽といった技能、言葉、遊び、集団生活への適応、社会性、基本的な生活習慣、危険の認知といった項目によって子どもが評価され、これらの活動の基礎的要因となるべき「感情」が、評価あるいは指導の対象として積極的に論議されることは稀である。実際、幼児の発達検査として全国で広く使われているいわゆる「遠城寺式発達検査」や「津守式発達検査」のいずれも、その評価対象の領域中に「感情」あるいは「情緒」が存在せず、「社会性」「対人関係」の中に、感情に言及する質問項目がいくつか含まれているに過ぎない。

本調査は、上述の現状が、感情面の発達様相の理解不足から招来しているものと考え、幼児期におけるその感情面での発達の様相を明らかにすることを基本的な目的としているが、本論文は、われわれの調査研究の第1報として、その結果の概要について報告するものである。

調査方法・調査対象・調査時期・質問項目

詳細は、前掲の論文(島田・松田・大坪; 1985: 『幼児の社会的・感情的発達に関する研究(Ⅰ)——方法論を中心に——』)を参照されたい。感情に関する質問項目は、大項目、小項目合わせて96項目、領域は、喜悅、愛情、不機嫌、嫌い、怒り、恐怖、過敏、恥ずかしがる、嫉妬、くやしがる、さびしがる、悲しがる、よく泣く、の計13領域であり、回答はすべて、「いつも」「ときどき」「ほとんどない」の3件法である。前掲の論文で述べたように、男児1,530人、女児1,448人の計2,998人の幼児が調査対象であり、年齢構成は、6歳942人、5歳922人、4歳661人、3歳442人、2歳19人、不明12人であったため、本論文では、このうち2歳と不明を除いた2,967人の幼児について集計を行った。

結 果

1. 感情の発達に関する分析

本論文では、前述の13の各領域について、その代表的な質問項目に対する調査結果を図示しながら概略を述べる。なお、年齢による差の検定に χ^2 検定、園と親との差の検定にはサイン検定を用いている(資料参照)。

(喜 悦)

「喜ぶ」とか「嬉しそうにする」といった感情に関する質問項目である。図-2に「よくできたとき、ほめてもらったとき、うれしそうにしている」という項目に対する集計結果を示す。 χ^2 検定では発達に伴う差は見られない(園での場合、 $\chi^2=6.343$, $df=6$, $p>0.05$)。

この喜悦の感情は、図-1に示したように、Bridges (1932)ではもっとも遅く分化する情緒であるとされているが、図-2に示したこの項目だけでなく、喜悦に関する項目のほとんどで大きな差は見られず、全体として、3歳から6歳の間は発達に応じて顕著な差が存在するとは言えない。

(愛 情)

図-3に、「生き物をかわいがる」という項目に対する集計結果を示す。この愛情という領域は、他人へのいたわり、おもいやり、生物への愛情などによって質問が構成されているが、図-3に掲げた例だけでなく、すべての質問項目において、統計的に有意な発達傾向が見られる。

(不機嫌)

図-4は、「思い通りにならないとき不機嫌になる」という項目に対する集計結果である。この「不機嫌」も、そこに含まれるほとんどの項目において、発達による差が統計的に有意であり、年齢が進むにつれて、「不機嫌」という感情が幼児において次第に表出されなくなると言える。

(嫌 い)

この「嫌い」では、調査結果が2つのタイプに大別される。「嫌いな友だちがある」の場合は、

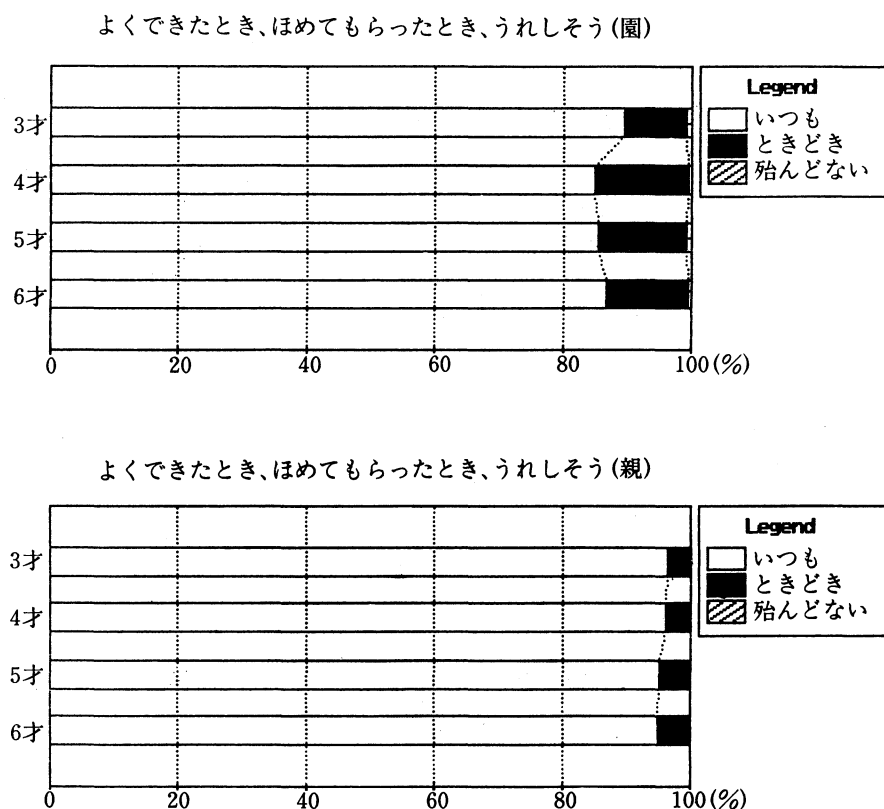
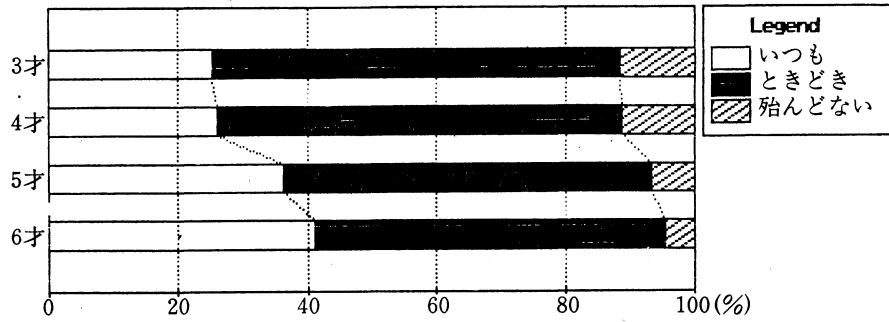


図-2 喜悦(よくできたとき、ほめてもらったとき、うれしそう)

生き物をかわいがる(園)



生き物をかわいがる(親)

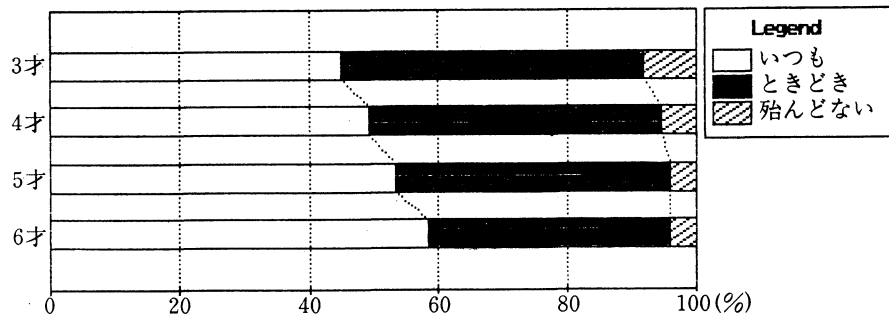
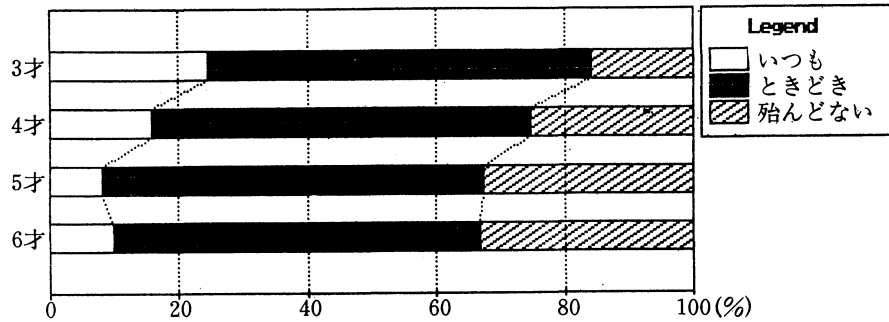


図-3 愛情 (生き物をかわいがる)

思い通りにならないとき、不機嫌(園)



思い通りにならないとき、不機嫌(親)

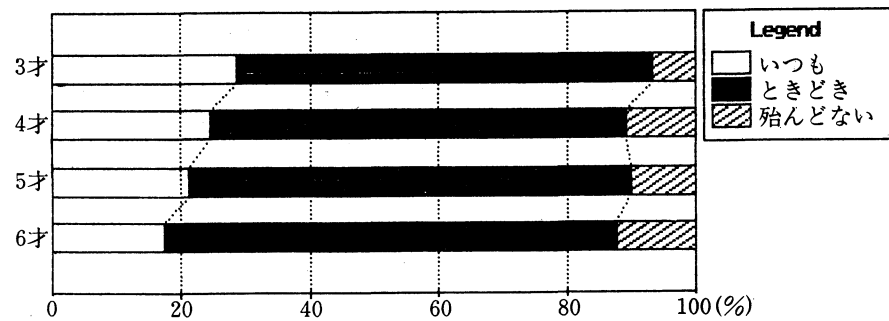


図-4 不機嫌 (思い通りにならないとき不機嫌になる)

それが増加する方向に、発達による差が見られたのに対し（園での場合、 $\chi^2=33.707$, $df=6$, $p<0.001$ ）、「動物を嫌う」や「親や先生を嫌う」といった質問項目では、逆に、「嫌う」が減少する方向に発達に伴う差が有意である。図-5は、このうち前者の「嫌いな友だちがある」の結果である。

（怒り）

「怒り」に関する質問項目の中で、「約束が守られないと怒る」だけが、年齢が進むにつれて、「怒り」が増大する傾向を示したが、他の項目は逆に、「怒り」が減少する傾向を示している。図-6は、「親や先生に対して気に入らないと怒る」の結果である。年齢が進むにしたがい、「ほとんどない」が有意に増大している（園での場合、 $\chi^2=39.547$, $df=6$, $p<0.001$ ）。また、この場合、園の評定よりも親の評定において、より怒りやすいとなっており（ $CR=20.11$, $p<0.001$ ）、注目される。

（恐怖）

質問項目では、動物、暗い所、一人でいること、知らない人、高い所、いじめる子、けがや病気など、いろいろなものに対する恐怖を調査したが、すべて、年齢が進むにしたがい、「恐怖」が減少する傾向を示している。ただ、図-7に示した「いじめる子をこわがる」場合は、「ほとんどない」が4歳でもっとも少なく、以後、増加する。

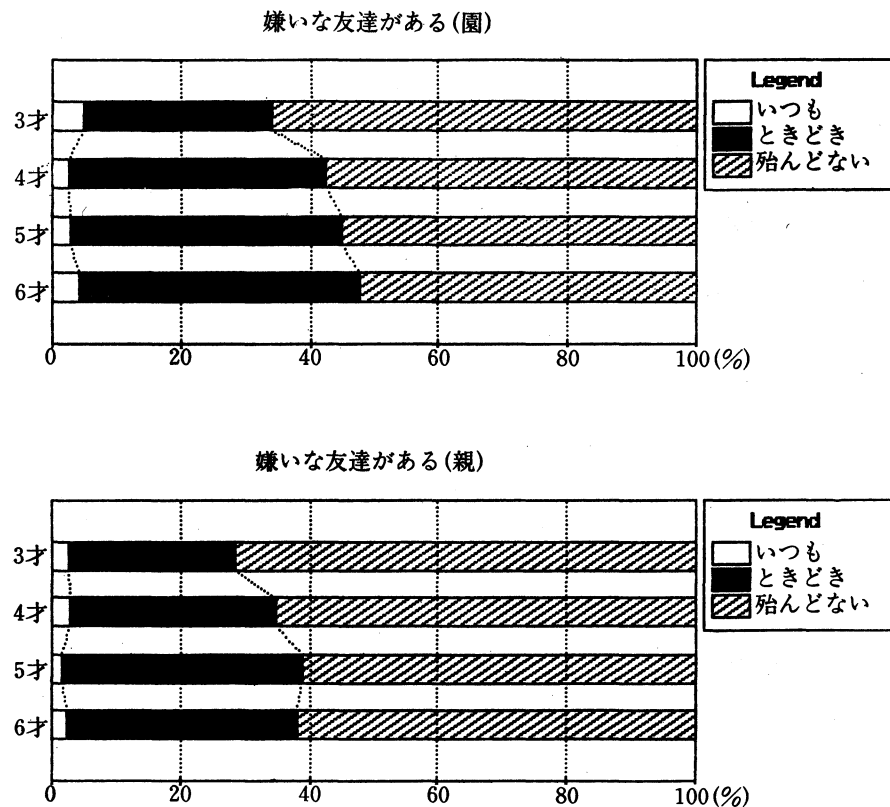
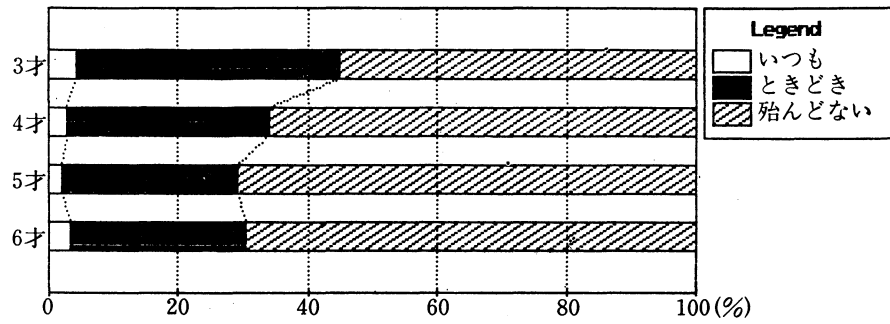


図-5 嫌い(嫌いな友だちがある)

親や先生に対して気に入らないと怒る(園)



親や先生に対して気に入らないと怒る(親)

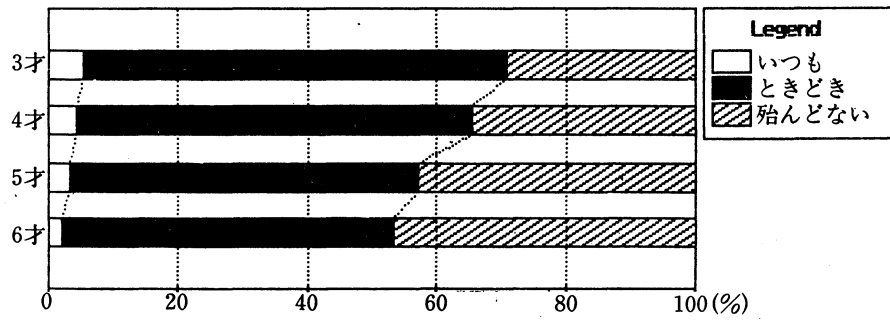
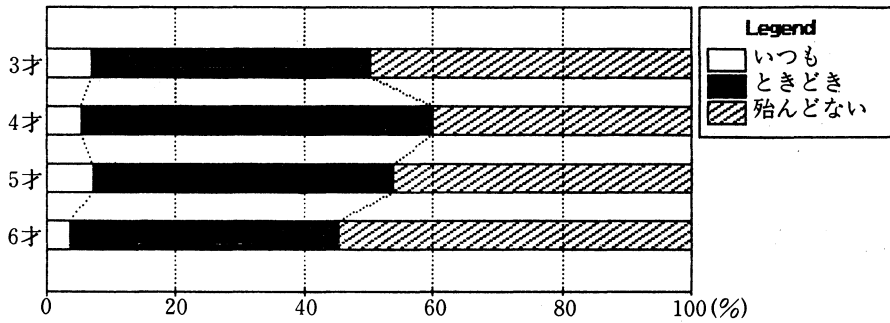


図-6 怒り(親や先生に対して気に入らないと怒る)

いじめる子を恐がる(園)



いじめる子を恐がる(親)

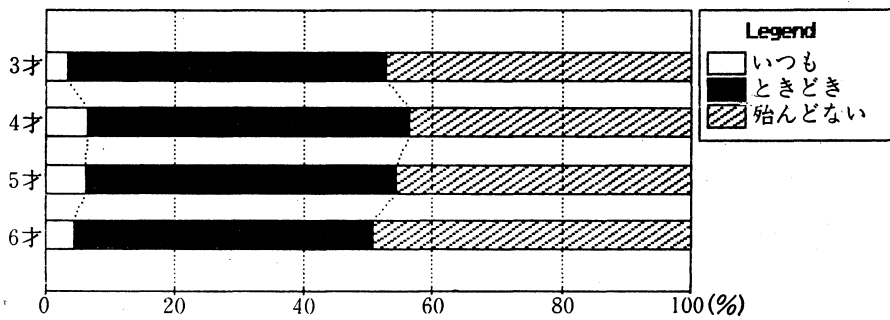


図-7 恐怖(いじめる子を恐がる)

(過 敏)

図-8には、その代表として、「何か言われると、すぐびっくりする」をあげているが、このように、年齢による差はほとんどなく、これは、この領域の項目の大部分に共通している。

(恥 ず かし がる)

図-9は、「人よりできないと、恥ずかしがる」の結果である。年齢が進むにつれて、「恥ずかしがる」比率は明らかに増大する(園での場合、 $\chi^2=101,236$, $df=6$, $p<0.001$)。他の項目でも同様であり、「恥ずかしがる」感情は、3歳児から6歳児にかけて次第に強くなると言える。

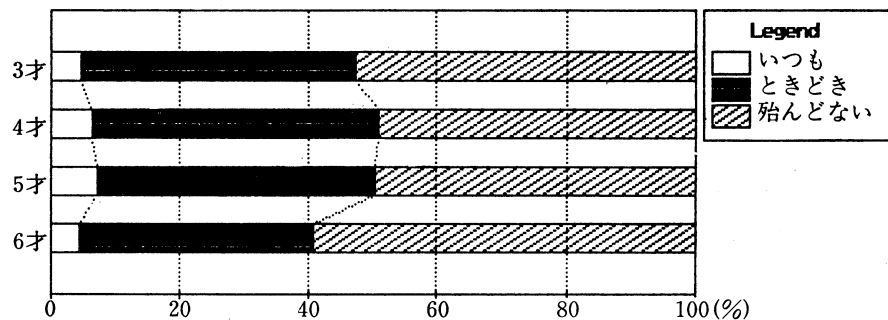
(嫉 妬)

嫉妬の場合も、前述の「嫌い」と同様に、その嫉妬する中身の違いによって異なる結果を得た。図-10のように「人がかわいがられると嫉妬する」というのは、年齢が進むにつれて減少するが(園での場合、 $\chi^2=17.186$, $df=6$, $p<0.01$)、一方、「他の子のほうが優れていると嫉妬する」では逆に年齢が進むにつれて嫉妬が強くなる傾向を示す。

(く や し がる)

図-11には、「運動で人に負けるとくやしがる」の結果を示す。年齢が進むにつれて、くやしがる感情が次第に強くなる傾向を示している(園での場合、 $\chi^2=98.683$, $df=6$, $p<0.001$)。これは他の項目についても言え、くやしがる感情が、3歳から6歳にかけて発達すると考えられる。

何か言われると、すぐびっくりする(園)



何か言われると、すぐびっくりする(親)

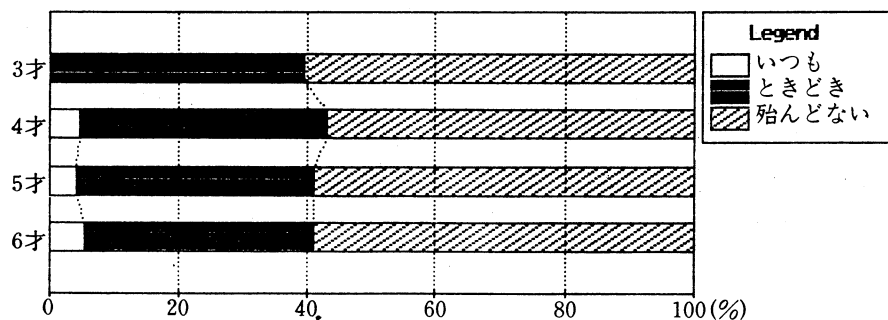
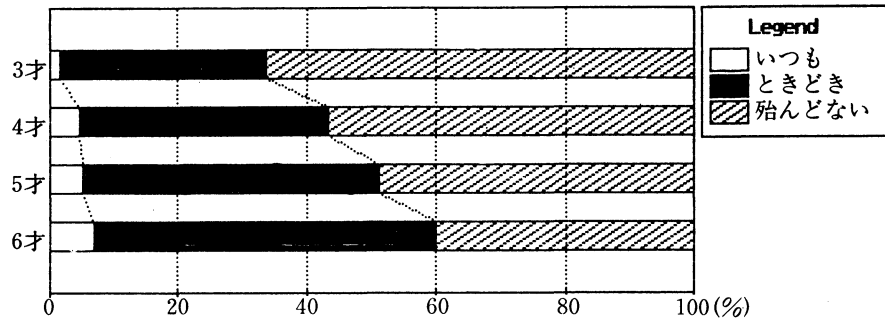


図-8 過敏 (何か言われると、すぐびっくりする)

人よりできないと恥ずかしがる(園)



人よりできないと恥ずかしがる(親)

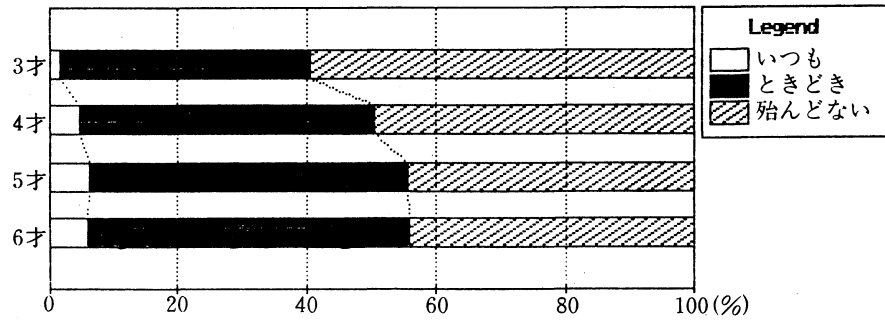
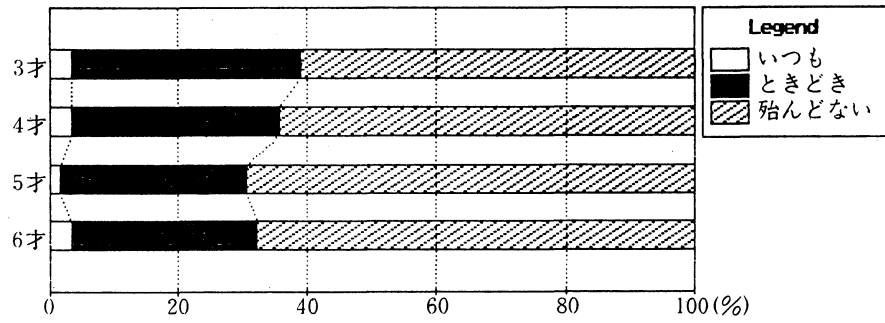


図-9 恥ずかしがる (人よりできないと恥ずかしがる)

人がかわいがられると嫉妬する(園)



人がかわいがられると嫉妬する(親)

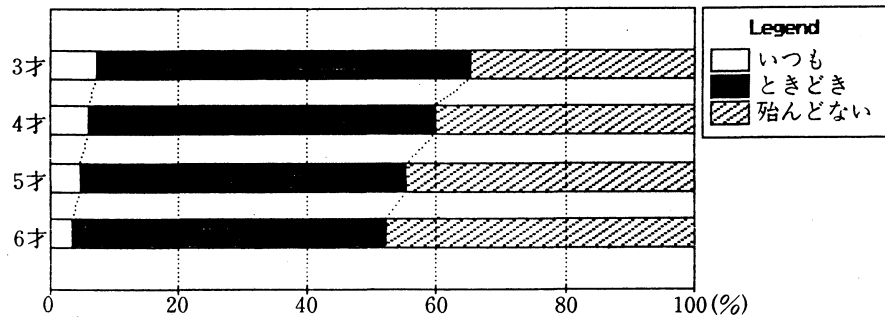
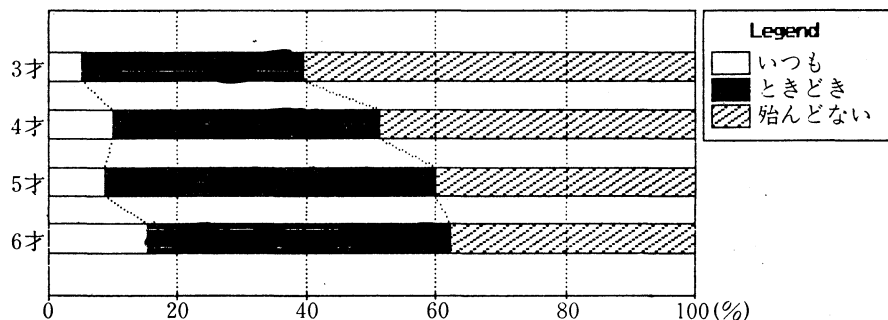


図-10 嫉妬 (人がかわいがられると嫉妬する)

運動で人に負けるとくやしがる(園)



運動で人に負けるとくやしがる(親)

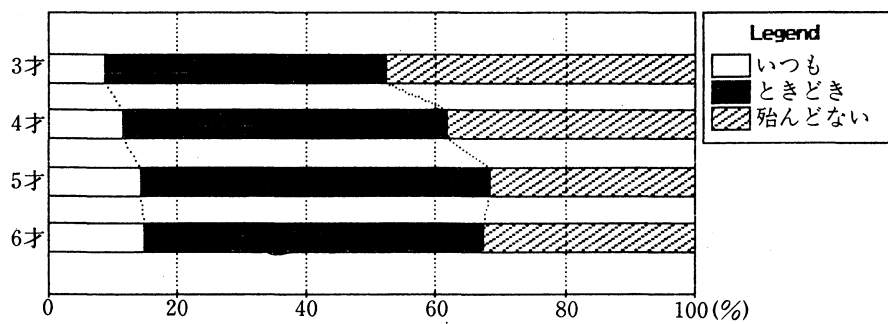


図-11 くやしがる(運動で人に負けるとくやしがる)

(さびしがる)

図-12は「母親がいないときさびしがる」の結果である。年齢が進むにつれて、「ほとんどない」が増大し、「いつも」が減少する(園での場合、 $\chi^2=98.278$, $df=6$, $p<0.001$)。これは、「家で一人になるとさびしがる」でも、まったく同様の傾向を示す。ところが、「友達がいなくてさびしがる」では、まったく逆に、年齢が進むにつれて、「さびしがる」気持ちが強くなっている(園での場合、 $\chi^2=36.998$, $df=6$, $p<0.001$)。それを図-13に示した。

(悲しがる)

質問項目のうち、「友達がいなくて悲しそう」と「母親が家にいないとき悲しそう」および「家で一人ぼっちのとき悲しそう」の3問については、前述の「さびしがる」と、それぞれまったく同じ傾向を示した。このような場面設定では、「さびしがる」と「悲しがる」を区別することは、難しいとも考えられる。その他の質問項目では、図-14の「しかられたとき悲しそう」のように、年齢による差がほとんど見られなかったものが多い。

(よく泣く)

図-15に示したのは、「何か言われるとすぐ泣く、涙を流す」という項目である。年齢が進むにつれて、「ほとんどない」が有意に増加する(園での場合、 $\chi^2=109.647$, $df=6$, $p<0.001$)。

2. 保育園・幼稚園での評価と親の評価

保育園・幼稚園の保育が行った評価と親が行った評価を比較すると、全体的にはかなり一致して

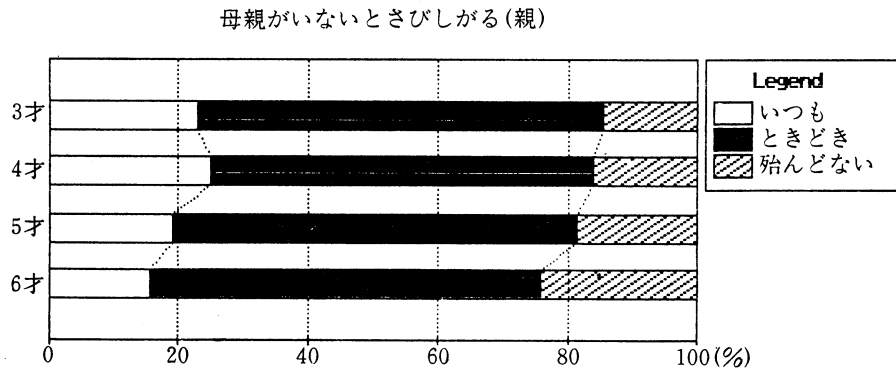
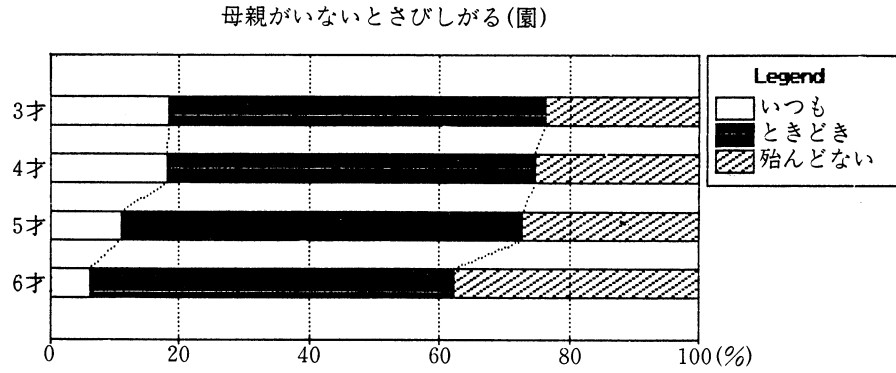


図-12 さびしがるA (母親がいないとさびしがる)

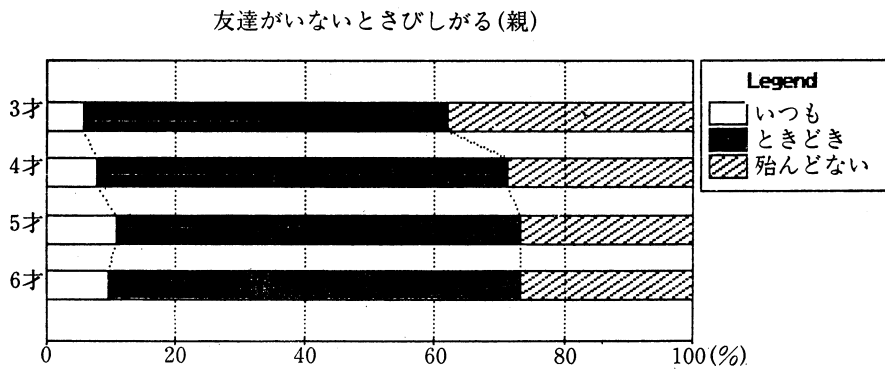
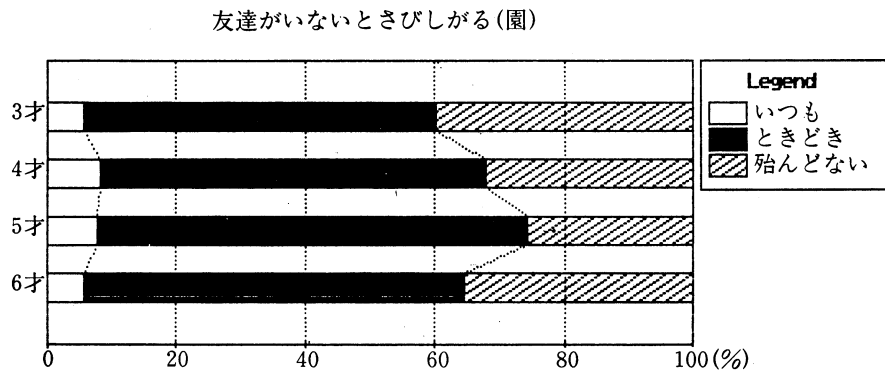
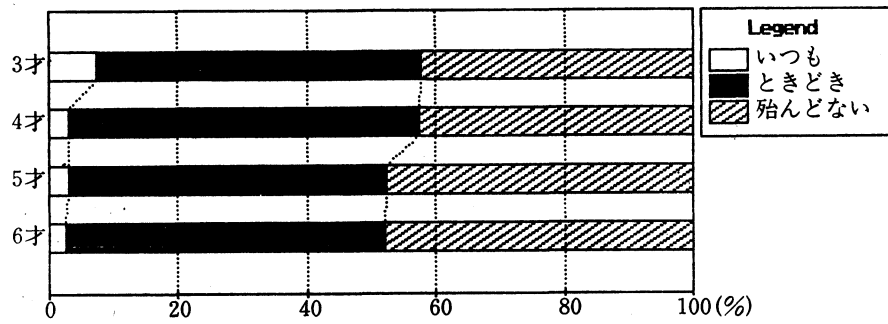


図-13 さびしがるB (友達がいないとさびしがる)

しかられたとき悲しそう(園)



しかられたとき悲しそう(親)

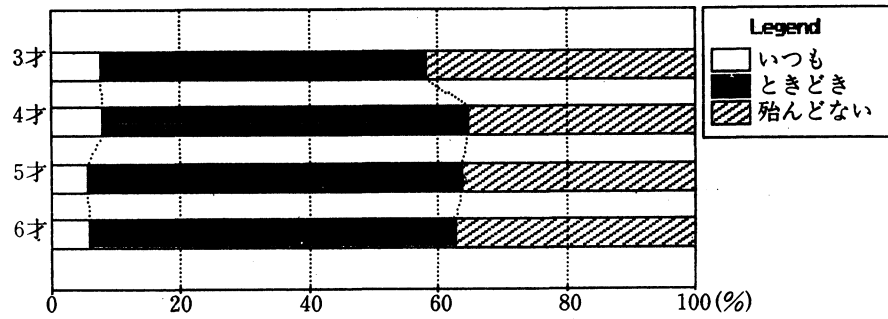
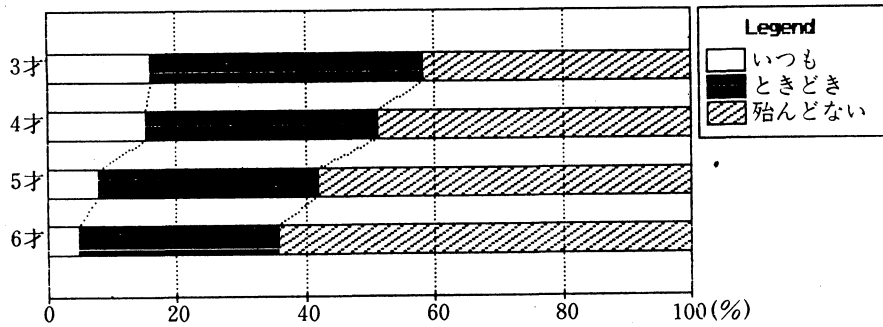


図-14 悲しがる(しかられたとき悲しそう)

何か言われるとすぐ泣く、涙を流す(園)



何か言われるとすぐ泣く、涙を流す(親)

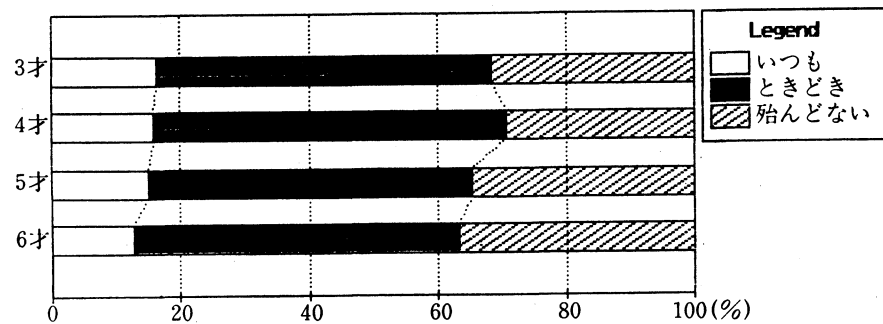
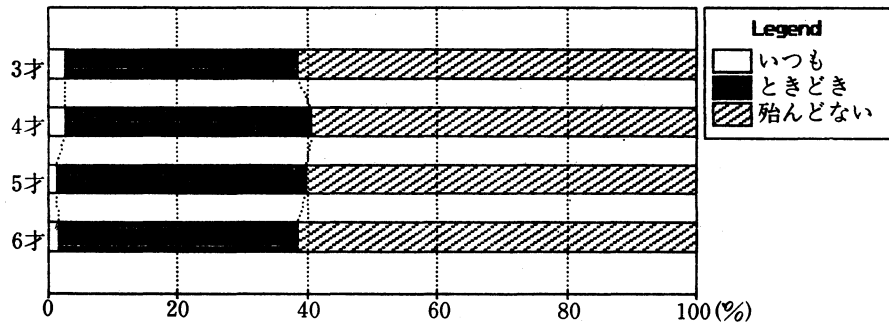


図-15 よく泣く(何か言われるとすぐ泣く、涙を流す)

本を読み、勉強しろ、おけいこをしろと言われたとき不機嫌



本を読み、勉強しろ、おけいこをしろと言われたとき不機嫌

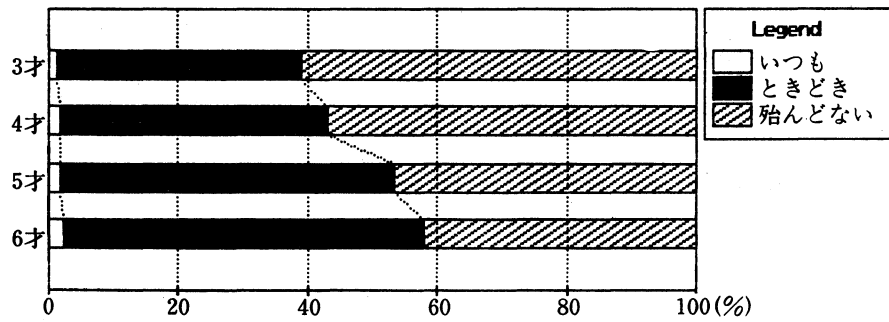
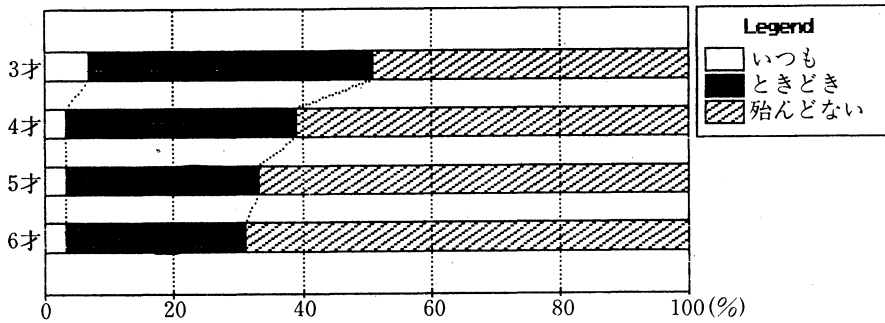


図-16 園と親で発達傾向が異なる例 (本を読み、勉強しろ、おけいこをしろと言われたとき不機嫌)

自分ができないと怒る(園)



自分ができないと怒る(親)

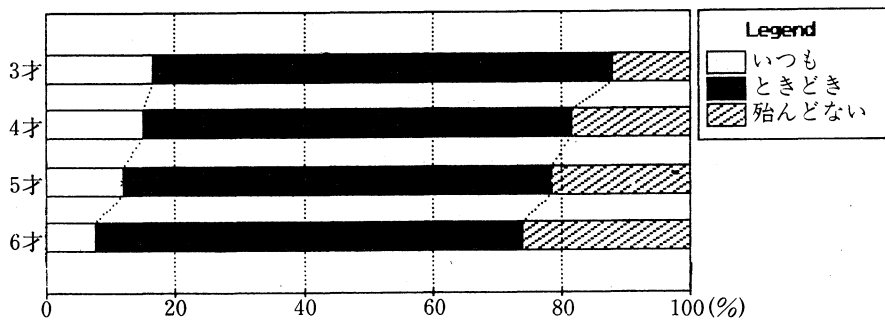


図-17 園と親で選択される程度が異なる例 (自分ができないと怒る)

いる（資料参照）。しかし、明らかに相違を示した質問項目もいくつかあったので報告する。

(a) 発達傾向において異なるもの

- 「本を読み、勉強しろ、おけいこをしと言われてたとき、不機嫌」（図-16参照）
- 「おこられたとき、不機嫌」
- 「他の子のほうが優れていると嫉妬する」

(b) 選択肢の比がかなり異なるもの

- 「何か気に入らぬと、すぐすねて不機嫌になる」
- 「自分ができないと怒る」（図-17参照）

考 察

1. 感情・情緒の発達に関して

各領域での結果をまとめてみると、発達の似た場合、以下のような分類が可能である。

- A. 年齢が進むにつれて強くなる、あるいは頻度が高まるもの……『愛情』『恥ずかしがる』
『くやしがる』
- B. 年齢が進むにつれて弱まる、あるいは頻度が低下するもの……『不機嫌』『恐怖』
『よく泣く』
- C. その感情を抱く原因や対象により、発達様相が異なるもの……『嫌い』『怒り』『嫉妬』
『さびしがる』『悲しがる』
- D. 年齢による差が、あまり見出されなかったもの……『喜悦』『過敏』

このうち、Aは社会的に承認され、歓迎される感情（愛情）や対人関係の深化によってもたらされると考えられるもの（恥ずかしがる・くやしがる）である。感情・情緒が、他人との関わりの中で育てられることは当然であり、これはその反映と考えられる。

Bは、葛藤場面において、無適応ないし不適応となる情緒的状态である。年齢が進むにつれ、いろいろな適応機制を学ぼうちに、これら無適応状態を脱する方法を体得していくとも考えられるが、ともかく、社会的に歓迎されないであろう感情が、年齢が進むにつれて、意識的にせよ、無意識的にせよ「抑制」される傾向にあると考えられる。

Cは、今後、因子分析等を利用した検討を行い、改めて報告する予定であるが、たとえば、「怒り」の場合、「約束が守られないと怒る」が他の質問項目と異なって、「怒り」が年齢とともに強まっており、その「怒る」原因が、対人関係の深まりとともに複雑化するという点も考慮すべきことであろう。

Dは、本調査において顕著な年齢差があらわれなかったものであるが、上のAやBで述べた仮説を適用すると、『喜悦』はA、『過敏』はBに入ることが期待され、本調査が3歳から6歳までであったことを考え、これらの項目については、3歳未満、7歳以上での調査実施が待たれる。

2. 保育園・幼稚園での評価と親の評価

本調査は、同一の幼児に対して、保母と親が各々独自に、同一の質問項目に対し回答することに大きな特色がある。調査結果では、図-16、図-17に代表されるような評価の差もいくつか見出された。それぞれの項目について、その相違の原因をいろいろ想像することは可能であるが、本報告では、2つの基本的な仮説について言及するに留める。

第1の仮説は、教師と親の評価能力の差にその根本的な原因を求めるものである。質問紙形式の発達検査（前掲の遠城寺式や津守式など）において、対象となる子どもの親に質問した場合、どちらかという甘い点が出やすいことは、児童相談所や保健所などでもよく耳にする。「親は自分の子を過大評価しがちである」とか「親は自分の子に対しては近視眼的」という言い方は、暗に親の評価能力に疑いを向ける考え方である。子どもの発達に関する知識の差、比較可能な他の子どもたちの数の多少など、教師の方がより客観的評価が行いやすいなどの点が言及されよう。

第2の仮説は、教師と親の評価能力に差が無くても、その評価対象の子ども自体が、園と園の外で異なるのではないかとするものである。すなわち、子どものほうで、家の中と外でその行動を変えている場合である。この場合、教師の評価は園の中での状態に対して行われ、親の評価は家庭の中での子どもの状態が基準となるであろうから、当然、評価が異なるのである。

以上2つの基本的仮説に対しては、今後分析を進める中で明確にすべきであると考えている。

要 約

全国の2,967人の3歳から6歳までの未就学児に対して、感情的発達に関する96項目からなる質問紙調査を行い、その子どもの教師（保育園・幼稚園）と親（大部分が母親）に同一の項目に対し、各々3件法による評定を求めた。その結果、種々の項目でその発達の様相が明らかになった。3歳から6歳までの間に、幼児は、ある感情については促進の方向に、また、ある感情に対しては抑制の方向に変化しており、また、感情内容によっては、3歳から6歳までほとんど発達の変化を示さずに推移するものが示唆された。教師と親の評価は、全体的にはかなり一致しているが、質問項目によっては、大きく異なることが有り得ることが示された。

参 考 文 献

- Bridges, K.M.B. (1932) "Emotional development in early years." *Child Development*, 3, 324-341
- 遠城寺宗徳・合屋長英 (1977) 「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法〔九大小児科改訂版〕」慶応通信
- 島田俊秀・松田君彦・大坪治彦 (1985) 「幼児の社会的・感情的発達に関する研究(I)——方法論を中心に——」鹿児島大学教育学部紀要人文社会科学編, 36
- Singh, J.A.L. & Zingg, R.M. (1942) "Wolf-Children and Feral Man." Harper & Brothers. (邦訳は中野善達・清水知子訳「狼に育てられた子——カマラとアマラの養育日記——」福村出版, 1977)
- 高野清純・林邦雄 (1975) 「図説児童心理学事典」学苑社
- 津守真・磯部景子 (1965) 「乳幼児精神発達診断法——3歳～7歳まで——」大日本図書

〔資料〕

●全質問項目に対する統計処理結果（社会的発達と感情的発達）

A. 社会的発達

領域	質問項目	χ^2		注 ¹⁾ サイン検定		注 ²⁾ 園と親との一致度
		園	親	C R	方向	
接 触 (対大人)	大人のそばに寄り、よく話をする	21.29**	35.89**	10.46**	+	0.541
	大人の方へ近づぐだけ、そばに立つだけ	16.68*	35.50**	1.76		0.456
	大人にさわったり、押したりする	38.64**	87.66**	5.40**	+	0.434
	大人に声をかける	21.17**	43.18**	2.36*	-	0.512
	大人に何かを見せる	24.76**	31.32**	7.64**	+	0.495
	大人に話しかけてくる	11.88	29.43**	0.29		0.530
	大人の注意をひくため、派手にふるまう	8.69	36.53**	8.01**	+	0.462
	大人の注意をひくため、いたづらをする	6.08	36.48**	4.01**	+	0.551
接 触 (対子供)	他の子供のそばに寄りよく遊ぶ	28.99**	27.10**	0.49		0.648
	他の子供の方へ近づぐだけ、そばに立つだけ	26.26**	18.29**	5.78**	+	0.463
	他の子にさわったり、押したりする	17.01**	33.19**	9.22**	-	0.453
	他の子供に声をかけたり話をする	17.89**	4.34	8.60**	-	0.543
	他の子供に何かを見せる	17.74**	5.01	3.18**	+	0.506
	他の子供とよく遊ぶ	37.07**	27.79**	0.38		0.609
	他の子供の遊びをじっと見ている	50.75**	35.14**	10.38**	+	0.496
	子供たちのグループの外にいる 特別に親しい友だちがいる	58.96** 157.71**	14.41* 66.82**	1.77 2.45*	 +	 0.450
依 存 (対大人)	大人にとっても依存する	120.97**	98.38**	16.55**	+	0.554
	大人にほとんどいつも教えてもらう	75.06**	49.35**	13.50**	+	0.509
	けんかで大人にさばきを求める	81.25**	51.19**	3.42**	+	0.459
	大人の賛成を求める	26.72**	30.30**	7.72**	+	0.499
	大人に着るのを手伝ってもらう	575.94**	458.24**	23.92**	+	0.514
	大人に道具、遊具の扱いを手伝ってもらう	216.53**	135.70**	21.83**	+	0.484
	大人に食べさせてもらう	307.36**	406.79**	9.97**	+	0.784
	大人に甘えてなぐさめてもらう	218.18**	182.27**	23.65**	+	0.440
依 存 (対子供)	他の子供にとっても依存する	6.70	8.71	3.46**	+	0.532
	他の子に教えてもらう、助けてもらう	3.06	20.87**	7.99**	+	0.542
	けんかで他の子のさばきを求める	4.70	3.54	8.27**	-	0.514
	他の子の賛成を求める	11.14	16.72*	4.00**	+	0.540
	他の子に着物を着るのを手伝ってもらう	161.80**	126.93**	0.13		0.808
	他の子に道具、遊具の扱いを手伝ってもらう	72.42**	41.46**	16.86**	+	0.523
	他の子に食べるのを手伝ってもらう	38.61**	32.13**	2.30*	+	0.898
愛 情 (対大人)	大人によく愛情を示す	15.64*	54.44**	25.36**	+	0.495
	大人に愛情的にふるまう	22.49**	130.52**	25.87**	+	0.379
	大人に手伝いを申し出る	9.92	40.66**	9.44**	+	0.463
	大人が怪我をするといったわりを言う又は助けようとする	29.37**	15.29*	25.86**	+	0.411
	大人が困っていると同情する	64.75**	8.26	20.89**	+	0.436

愛情 (対子供)	他の子によく愛情を示す	23.23**	22.56**	12.36**	+	0.526
	他の子供に物を分けてやる	40.41**	32.91**	25.83**	+	0.482
	他の子供を手伝ってやる 手伝いを申し出る	91.76**	46.57**	5.71**	+	0.523
	他の子供が倒れたり、怪我をしたら助けてやる	93.25**	40.63**	11.00**	+	0.506
	悲しんでいる子供をなぐさめてやる	63.06**	8.29	7.80**	+	0.494
	他の子供、特に小さい子供をかばいかわいがる	74.32**	28.11**	16.91**	+	0.451
	新入りの子供を引っぱって仲間に入れてやる	98.92**	25.20**	7.64**	+	0.489
	生き物をかわいがる	79.08**	32.51**	16.51**	+	0.475
支配 (対大人)	大人をよく支配する	46.33**	96.56**	22.23**	+	0.430
	大人に言いつける	52.88**	121.75**	20.49**	+	0.431
	大人をしかる 大人にだめ! などと批判する	23.04**	89.45**	22.22**	+	0.440
支配 (対子供)	すべて他の子供の先に立って率先して行く	29.72**	28.80**	12.65**	+	0.559
	他の子供に命令する	16.72*	24.99**	11.99**	+	0.523
	他の子を誘って新しい遊びを始める	48.42**	40.69**	13.30**	+	0.507
	他の子の上に立って、ひっぱっていかうとする	52.99**	27.09**	10.83**	+	0.493
	他の子のお手本になるように振るまう	66.90**	33.34**	5.07**	+	0.493
	他の子にじゃまされた時その子に静かに言ってなだめる	106.33**	33.21**	0.43		0.526
	他の子のあやまりやまちがいを指摘する	24.70**	22.43**	6.36**	+	0.542
	大人に言いつけず、他の子のあやまりを訂正してやる	155.25**	64.74**	4.05**	+	0.525
従順 (対大人)	よく人の言うことを聞く	66.08**	16.56*	19.22**	-	0.536
	大人の言うことによく服従する	54.49**	25.21**	20.61**	-	0.493
	大人の言うことに応じてよく協調する	94.73**	23.68**	16.49**	-	0.489
	大人の手伝いを素直に受ける	37.82**	11.31	19.06**	-	0.482
従順 (対子供)	よく他の子供の言うことを聞く	63.30**	24.75**	3.95**	-	60.69
	他の子の言うことに従う	69.79**	15.62*	3.60**	-	0.670
	相手のやることに応じてよく協調する	102.70**	27.51**	2.30*	-	0.586
	自分から積極的に他の子供を手伝う	132.58**	29.94**	0.47		0.516
拒否 (対大人)	大人によく抵抗する	73.61**	19.97**	32.05**	+	0.432
	大人の言いつけに口答えしてやらない	38.38**	13.19*	28.57**	+	0.449
	大人の言いつけを聞かないで他所へ行く	71.11**	62.14**	10.48**	+	0.581
	大人の言いつけを反対はしないがやらない	62.79**	19.39**	15.15**	+	0.501
	大人に対して悪態をつく	27.25**	18.17**	22.72**	+	0.543
	大人をぶったり、物をこわしたり、かんしゃくをおこす	72.61**	116.47**	20.87**	+	0.605
拒否 (対子供)	他の子供をよく拒否する	15.10*	21.50**	4.85**	+	0.539
	他の子の言うことに従わない	36.60**	18.57**	6.66**	+	0.553
	他の子の言うことを無視する	11.92	30.36**	0.37		0.522
	他の子に対して悪態をつく	15.13*	33.57**	8.87**	+	0.588
	他の子をぶったり、つかんだりしてけんかする	80.42**	119.52**	4.20**	+	0.616
	他の子のしていることをじゃまする	54.65**	83.01**	6.21**	+	0.638
	新入りの子をいじめる	7.22	44.92**	0.98		0.860
	他の子と一緒にすることを拒否する	31.69**	24.86**	3.59**	+	0.587
	他の子の身体的な接触をいやがる	32.01**	30.10**	2.25*	+	0.693
	他の子をからかう	34.79**	22.55**	0.53		0.662
	友達からバカにされたり、からかわれたりする	1.80	7.50	9.44**	+	0.699

競争 (対大人)	大人によく自慢する	32.34**	42.18**	13.35**	+	0.496
	大人とよく競争し、又は大人に自慢する	12.31	44.27**	17.10**	+	0.434
	自分のしたことを大人にみてもらいたがる	32.28**	43.56**	20.05**	+	0.448
	大人に自分のしたことを得意に話す	40.76**	33.10**	17.65**	+	0.430
競争 (対子供)	他の子といろいろのことでよくはりあう	8.60	5.17	9.40**	+	0.530
	他の子に自慢して話す、又は競争する	7.39	12.71*	6.04**	+	0.498
	他の子と大人の注意をひくことではりあう	5.66	49.23**	3.52**	+	0.475
	他の子と持ち物、遊具、場所とりではりあう 自分が負けると泣く	69.89**	101.13**	5.87**	+	0.490
		185.04**	127.38**	18.80**	+	0.424
模倣 (対大人)	よく大人のまねをする	41.14**	92.00**	18.93**	+	0.453
	大人の口まねをする、言ったことをまねる	27.97**	87.71**	16.73**	+	0.474
	大人のすることをまねる	22.02**	95.27**	16.73**	+	0.489
	大人の着物の着方をまねる	50.80**	76.73**	19.77**	+	0.578
	ごっこ遊びの大人の役をする	19.88**	30.18**	13.41**	+	0.481
	大人の歩き方や態度をまねる	7.97	25.48**	13.21**	+	0.504
模倣 (対子供)	よく他の子のまねをする	10.03	36.19**	9.70**	+	0.504
	他の子の言葉をまねてくり返す	6.03	54.48**	6.44**	+	0.475
	他の子のしたことや笑いをまねる	6.81	20.29**	6.95**	+	0.491
	ごっこ遊びで子供の役をする 他の子の食べ方や食物をまねる	31.63**	13.22*	10.20**	+	0.495
	33.74**	56.16**	15.56**	+	0.597	
責任	当番や規則をよく守る	52.47**	132.64**	18.20**	-	0.566
	大人がいなくとも決まったことをする	164.80**	124.84**	16.46**	-	0.484
	禁止されたことはしない	101.32**	82.92**	12.57**	-	0.506
	あやまちをしたらあやまる	116.67**	17.61**	7.17**	-	0.484
	あやまちをして言訳を言う	28.31**	27.78**	8.13**	+	0.494
	きめられた当番等をする	262.17**	205.28**	25.54**	-	0.461
	きまりを守る	156.36**	130.96**	16.60**	-	0.528
	自分の番を待っている	124.57**	116.18**	12.95**	-	0.528
	筋が通ればいつでも自分の持っている玩具等を手ばなす	149.12**	58.75**	6.65**	-	0.496
	いいつけられたことを一人でする	174.27**	78.63**	9.39**	-	0.502
	自分のことを責任をもってする	308.18**	185.55	19.53**	-	0.487
	自分の持ち物の片付けができる 言われたように帰ってくる	90.36**	94.19**	19.75**	-	0.489
	155.82**	272.86**	2.94**	-	0.570	
自律性	自分のことは責任をもって何でも一人でできる	408.56**	226.53**	19.32**	-	0.571
	自分で着物の脱ぎ着ができる	319.44**	311.96**	4.79**	-	0.768
	自分のことを名前でなく、ぼく、私と言う	407.47**	118.92**	11.33**	-	0.540
	自分は男の子、女の子と言い出す	75.77**	29.17**	1.31		0.385
	同性の子とだけ遊ぶ	229.64**	146.44**	17.33**	-	0.411

* p<0.05

** p<0.01

B. 感情的発達

領域	質問項目	χ^2		注 ¹⁾ サイン検定		注 ²⁾ 園と親との一致度
		園	親	C R	方向	
喜 悦	うれしそうにしている	4.33	17.66**	10.19**	+	0.581
	よくできた時, ほめてもらった時, うれしそう	6.34	4.74	12.23**	+	0.836
	好きなものをもらったときうれしそう	1.51	9.56	13.94**	+	0.799
	遊んでいるときうれしそう	16.89**	7.70	8.67**	+	0.636
	好きなものを作っているときうれしそう	18.46**	13.62*	16.98**	+	0.651
	親や先生にあったときうれしそう	17.97**	10.05	13.43**	+	0.583
	よい服を着たときうれしそう	16.29*	12.21	12.63**	+	0.552
愛 情	よく愛情を示す	16.89**	9.72	16.48**	+	0.543
	妹や小さい子をかわいがる	71.84**	27.56**	12.06**	+	0.513
	動物, 植物, 花などをかわいがる	76.72**	26.18**	13.99**	+	0.520
	人が困っているときに助けてやる	122.51**	40.70**	5.42**	+	0.531
	人形をかわいがる	28.21**	11.55	16.65**	+	0.458
	友達に物をやったり, 手伝ったりする	55.16**	48.18**	9.97**	+	0.554
	親や先生に親切である	63.44**	25.19**	5.44**	+	0.521
	人が倒れたり, 怪我をするといたわる	99.37**	7.42	17.33**	+	0.489
生き物をかわいがる	75.04**	34.41**	15.10**	+	0.484	
不機嫌	不機嫌である	37.29**	9.22	5.73**	+	0.556
	ほとんどいつも不機嫌	30.65**	10.20	1.92		0.668
	本を読む, 勉強しろ, おけいこをしろと言われた時不機嫌	5.94	61.14**	8.26**	+	0.520
	おこられたとき不機嫌	73.79**	7.80	16.50**	+	0.477
	遊び友達がいないとき不機嫌	11.36	13.96*	6.85**	+	0.494
	自分の願いを叶えてくれない時, 思い通りにならない時	112.39**	31.59**	17.18**	+	0.484
	体の調子が悪いとき不機嫌	94.48**	56.92**	11.89**	+	0.488
何か気に入らぬとすぐすねて不機嫌	80.19**	33.16**	18.18**	+	0.427	
嫌 い	嫌いな人や物がたくさんある	13.39*	8.72	0.21		0.535
	嫌いな友達がある	33.71**	22.31**	6.41**	-	0.541
	動物を嫌っている	12.59*	18.13**	5.52**	+	0.621
	自分を怒る人, 自分をいじめる者を嫌っている	4.19	6.48	0.47		0.502
	親でも先生でも時々嫌いと思っているようだ	14.48*	5.92	2.51*	+	0.657
怒 り	いつも怒っている	31.86**	9.74	19.03**	+	0.587
	ほとんど毎日兄弟や友達に怒ってけんかする	12.11	11.10	18.59**	+	0.474
	親や先生に対して気に入らないと怒る	39.55**	56.21**	20.11**	+	0.489
	自分ができないと怒る	60.35**	58.39**	31.01**	+	0.388
	やっていることをじゃまされると怒る	36.35**	17.67**	21.91**	+	0.491
	悪口を言われたりいじめられると怒る	10.59	5.43	16.56**	+	0.488
	時間になっても食事にならないと怒る	4.80	7.48	16.09**	+	0.682
	嫉妬してよく怒る	23.17**	29.39**	19.27**	+	0.554
	他の子の持っているものをひったくる	139.15**	203.75**	0.18		0.732
	自分の物を他の子が取ろうとすると荒々しくひっぱる	206.27**	142.56**	14.63**	+	0.489
	自分のものが見えなくなると怒る	117.61**	46.99**	19.07**	+	0.503
約束が守られないと怒る	42.42**	30.12**	23.95**	+	0.439	

	自分のものを他の子が使うと怒る	117.60**	88.16**	10.79**	+	0.482
恐 怖	よくこわがる	78.12**	25.58**	16.67**	+	0.531
	動物をこわがる	24.95**	37.95**	14.33**	+	0.486
	暗いところをこわがる	162.01**	49.42**	19.23**	+	0.426
	独りであることをこわがる	111.48**	51.04**	8.70**	+	0.471
	知らない人をこわがる	57.78**	20.30**	5.00**	-	0.496
	高いところをこわがる	42.72**	34.03**	3.24**	+	0.515
	いじめる子をこわがる	44.18**	10.60	0.96		0.497
	けがや病気をこわがる	28.06**	13.78*	5.24**	+	0.498
	一人で外出することをこわがる	130.73**	135.88**	1.95		0.534
	実際にはないものを想像してこわがる	73.38**	22.06**	4.86**	+	0.533
	大きな音をこわがる	52.56**	65.48**	0.49		0.537
自分のしていることが大人に見つかるたびくびくする	19.20**	14.31*	10.35**	-	0.563	
過 敏	とても敏感である	24.13**	3.84	4.51**	+	0.549
	何か言われるとすぐびっくりする	27.66**	5.49	4.61**	-	0.519
	ちょっと言われたことでもきずつきやすい	9.04	26.85**	4.56**	-	0.463
	見知らぬ人や場所によりつけない	31.37**	9.28	8.18**	+	0.475
	雑踏のところはこわくて行けない	28.57**	12.37	2.93**	-	0.572
	他の子供のことで我身のように感じる	22.49**	15.69*	9.32**	+	0.513
	高い所, とがった物などをひどくこわがる	18.45**	14.52*	0.66		0.551
恥 ず かし がる	いつも恥ずかしがる	26.52**	12.58	1.29		0.627
	人の前に出ると恥ずかしがる	34.36**	11.61	2.39*	-	0.553
	人の前に出るとあがる	44.50**	27.15**	10.04**	-	0.488
	自分の名を人前で呼ばれると恥ずかしがる	41.54**	2.57	6.77**	-	0.506
	自分のしたことを人前で言われると恥ずかしがる	47.74**	47.14**	3.32**	+	0.506
成績が悪いと, 人よりできないと恥ずかしがる	101.24**	40.70**	2.54*	+	0.489	
嫉 妬	よく嫉妬する	13.52*	14.64*	17.16**	+	0.500
	人がほめられると嫉妬する	15.91*	4.92	11.51**	+	0.538
	人が持っているものを嫉妬する	26.89**	13.95*	13.48**	+	0.512
	人がかわいがられると嫉妬する	17.19**	29.58**	17.72**	+	0.484
	人がよくできるとか, はやいとかが, 優れていると嫉妬する	22.61**	4.83	9.97**	+	0.500
	人が仲がよいと嫉妬する	10.84	18.80**	7.24**	+	0.608
人の家庭のことを嫉妬する	5.63	5.97	14.11**	+	0.601	
く や し がる	いつもくやしがる	17.41**	11.46	13.21**	+	0.547
	運動で人に負けるとくやしがる	98.68**	42.82	7.47**	+	0.491
	何でも一番になれないとくやしがる	31.08**	9.02	9.18**	+	0.516
	自分の思った通りにならないとくやしがる	10.19	18.23**	16.69**	+	0.460
さ び し がる	いつもさびしがる	83.53**	31.73**	13.23**	+	0.590
	母親がいないとさびしがる	98.28**	40.19**	11.74**	+	0.492
	家で一人になるとさびしがる	119.43**	97.90**	13.51**	+	0.493
	友達がいなくてさびしがる	37.00**	28.45**	3.80**	+	0.522
悲 し が る	いつも悲しがる	31.02**	5.70	3.22**	+	0.576
	ほとんどいつも悲しそう	17.88**	2.39	4.08**	-	0.777
	叱られたとき悲しそう	29.08**	11.48	7.81**	+	0.486

	友達がいないとき悲しそう	22.11**	26.18**	1.06		0.500
	友達とけんかしたとき悲しそう	17.79**	10.86	2.27*	-	0.526
	自分の願いが思い通りにならないとき悲しそう	42.32**	20.52**	12.31**	+	0.520
	体の調子や運動が思い通りにならないとき悲しそう	9.74	19.82**	3.29**	+	0.512
	母親が家にいないとき悲しそう	113.48**	39.56**	3.13**	+	0.524
	家で一人ぼっちのとき悲しそう	120.38**	71.7***	6.54**	+	0.482
よく泣く	いつもよく泣く	117.23**	31.63**	18.83**	+	0.498
	何か言われるとすぐ泣く, 涙を流す	109.65**	12.31	16.84**	+	0.444
	他人が叱られても一緒に泣く	24.35**	18.68**	12.90**	+	0.750
	すぐ泣くのでなんで泣いているのかわからない	64.69**	20.16**	7.50**	+	0.755
	人にからかわれるとすぐ泣きだす	25.87**	5.89	8.19**	+	0.533

* p<0.05

** p<0.01

(注 1) 選択肢の「いつも」、「ときどき」、「ほとんどない」に、それぞれ順に 1, 2, 3 点を与え、調査対象児の 1 人 1 人について園の判断を引く。この値が 0 となったサンプル数を a 、値が正となったサンプル数を b 、負となったサンプル数を c とする。臨界比 CR は次式で求められる。方向もその符号を示す。

$$CR = \frac{|b-c|-1}{\sqrt{b+c}}$$

(注 2) 注 1 の a , b , c を用いて、次式で求めたものである。

$$r = \frac{a}{a+b+c}$$